

被災者を切り捨て、傷つける政治を変えるまで 私たちは、決してあきらめない。そして、たたかい続ける。

今村復興相

— 辞任ではすまされぬ。

官邸前抗議行動・政府、東電交渉に120名参加

4月26日、「まだ東北で、あつちのほうだからよかった。首都圏に近かったりすると、莫大な額になったと思う」と暴言を吐いた今村復興相の辞任という事態を受け、福島県農民連は、首相官邸前で抗議行動を行い、その後、政府・東電への申し入れと交渉を行いました。



「4.26 政府・東電交渉」都道府県会館にて

福島県農民連 根本敬会長の官邸前でのあいさつ

今日4月26日はチェルノブイリ原発事故が起きた日です。そして、スペイン内戦でヒトラードイツ空軍が、ゲルニカに無差別爆撃を行い2000名以上の市民を殺傷した日でもあります。終戦25周年記念式典でプラント首相はこう述べました。「過去に何があったかを思い起こせない人は、今日何が起きているかを認識できないし、明日何が起きるかを見通すこともできない。」

相馬農業高校飯館校演劇部が高校演劇コンクールで全国大会出場を果たしました。たった4人の部員での快挙です。その劇中で主人公がこう語ります。「今から、少しずつ心に傷をつけて、心を慣らしておきたい。自分で傷をつけて、いつか来る痛みへの準備をしておきたい。」この世代は、今起きている事態には何の責任もありません。彼らは負の遺産を背負うしかないのです。彼らは、この事態、歴史にきちんと向き合おうとしています。

私たち、おとながもっと真剣に今日と歴史にむきあい、被害者で終わることなく、たたかい続けることこそ次世代への真の責任を果たすことです。たたかい続けましょう。たゆまず、勝利するまで。

福島県農民連 政府・東電交渉ハイライト

(発言は要旨)

今村大臣の辞任を受けての対応を問う

農民連—今村復興相辞任を受けて、今後どう復興に臨むのか。
復興庁—真摯に職務を遂行したい。
農民連—この事態を踏まえて、新たな決意で臨むという姿勢はないのか。
復興庁—これ以上のことは申し上げられない。
農民連—あなたは、被災地に来たことがあるのか。
復興庁—ございません。
農民連—現場に來なさい。復興庁—……

農地一筆ごとの汚染マップ作製を問う

農水省—航空モニタリングと311か所の実測を行っている。
農民連—1平方メートル4万ベクレルを超える農地がいまだにある。
農協も測っている。協同で測定作業をしませんか。
農水省—ここで即答はできません。検討します。

米の全袋検査の継続を問う

農水省—流通業者の中に検査することで風評を助長してるという声がある。
農民連—そんな、いい加減な話はない。それは、政府自身がやめたいと考えているからだろう。

乳牛の死亡による損害を問う

東電—現在、獣医師からの聞き取りを行っている。
農民連—バカ言っちゃいけない。事故直後は、きちんと払っているじゃないか。
農水省—牛は極めてデリケートな動物で、餌の変更や搾乳の減少などで体調の変化を起こすことは明確であり、事故前と後では死亡数が増えている。原発事故が大きく影響していることは明瞭であり、東電はその責務を負うことは当然である。会場から大きな拍手

交渉デビュー 安達地方農民連「三人娘」座談

司会者—どうでしたか、初めて参加して……
江田さん—ビックリ！ 役人の方々のピントをうまく外しての答え。
若林さん—マニュアルどおりにしか話せないんじゃない。
江田さん—あんなに心を無にして話せるんだ。日本をこの人たちにまかせて大丈夫かしらって思っちゃう。
泉さん—私たちがあきらめるのを待っているのよ。今回参加して、黙っていたらダメだって、ほんとうに思ったわ。
若林さん—国会議員会館の前を通ったら、全労連の皆さんが頑張っている姿をみて、頑張っている人たちがいるんだって心強かったあ。それと、会員さんで普段おとなしい方が怒りを直接ぶつける姿に感動したわ。
司会者—政府や東電がそう易々と私たちの要求を受け入れるわけではない。たたかい続けてこそ、私たちは強くなる。

4.26 政府・東電交渉への要求行動に参加して

南会津 星和孝

今村復興相辞任を受けて、首相官邸前の物々しく夥しい警察の数の中、シュプレヒコール。「原発再稼働反対」「福島を返せ」「汚れていない土地を返せ」「福島を切り捨てを許さないぞ」。叫べども、叫べども、廻りを行き交う歩行者は無関心な様子。都会の現実を目の当たりにする。

4.26 この日、過去に何があったのかを知る人は数少ないだろう。政府・東京電力交渉の席では、私たちの質問に対し、東電及び各省庁の方々は返答に困ると皆一様に、「持ち帰りさせて頂き、検討させていただきます」の一点張り。噛み砕いた質問にさえ同様の返答。まるで国会質疑をテレビで見ているかの様に思えた。

私たちは日頃から「地域をデザインする」と言っている。そして次に向けてのヴィジョンを前提に行動しているが、彼らには福島をデザインすることや将来的なヴィジョンさえ伺えなかったことを残念に思う。

最後に、シュプレヒコールで服部さんが皆を代弁して言ってくれた『諦めないからな』を噛み締めながら帰路に着いた。

吉野復興相が福島県農民連と懇談すると答弁

4月28日、参議院災害対策特別委員会で希望の会(自由・社民)の山本太郎議員の質問で吉野復興相が福島県農民連と「ご指摘の皆さんと一度会ってじっくりと話を聞いてみたいと思います」と答弁。

山本議員は、福島県農民連の農地土壌汚染測定資料を使って、福島県内の多くの農地が「放射線管理区域」であるにも関わらず、農民には何らの放射線防護の法的措置がないことをこの国会で糾しています。

農民連フラッシュ flash

「集まって、食べて、話して」女性のネットワークを活かそう!

4月1日、第23回福島県農民連女性部総会が南相馬市鹿島区で39人の参加で開かれました。総会の後は農家民宿の皆さんの手作りの昼食、午後からの藍染体験はステキな作品が出来上がり、大いに盛り上がりました。農業、地域を守るためにも女性の主体的な力が求められています。楽しい活動と合わせて、仲間増やしをしていくことを確認した総会になりました。



南三陸町バイオガス発電施設視察

4月11日、南三陸町のバイオガス発電施設の視察が行なわれました。震災以降エネルギーの自立を目指してきた南三陸町では、住民に生ごみ分別の協力を求め、農民には液肥の利用を進めてきました。発電も順調で、視察も1年間で1000名を越し、注目されています。今は町の一部の取り組みですが、今後施設を増やしていく予定です。



NOTE

青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

若い農業者のつみやき の一と せいねんぶ農人

県農民連青年部第23回総会が福島市・アオウゼで行われた。根本敬会長から農民連の行動綱領やあゆみを学ぶ。「自分の言葉を持ち、語り、考えるだけでなく実践を」と、次世代へ繋げる熱意溢れる学習会だった。

by岩淵

